

令和5年度 八千代中学校 学校評価シート【学期末】（全体）

学校教育目標

選択肢の数値換算標準

よくあてはまる：5
（よく思う）

あてはまる：4
（やや思う）

あまりあてはまらない：2
（あまり思わない）

まったくあてはまらない：1
（まったく思わない）

評定指標

A：達成している（達成値が4.0以上4.5未満） B：おおむね達成している（達成値が3.5以上4.0未満）
C：あまり達成していない（達成値が3.0以上3.5未満） D：達成していない（達成値が3.0未満）

「 優しく、賢く、逞しく 」 ～ 未来を切り拓く生徒の育成 ～											
学校自己評価（達成状況）【 A：達成している B：おおむね達成している C：あまり達成していない D：達成していない 】											
観点	項目	教職員	保護者	生徒	今年度評価（点数は評価指標の平均）						
					昨年度 達成値	今年度 達成値	前年比	教職員	保護者	生徒	評定 総合評価
(1)いのちと人権を守る教育	①確かな生徒理解に基づく生徒指導	①教育相談等を通じて、一人ひとりの生徒の内面を共感的に理解し、信頼関係に基づいた指導に努めている	②学校は、お子さんの声に耳を傾け、適切な指導をしている	②先生は、自分の悩みに耳を傾け、丁寧に指導されている	4.1	3.9	-0.2	4.1	4.0	3.7	B
	②いじめの未然防止・組織的対応	②いじめ防止基本方針に基づき、迅速かつ組織的な対応に努めている。また、生徒支援カルテシステムによるきめ細やかなサポートに努めている	③学校は「いじめを許さない」という姿勢で早期発見に努めるとともに、保護者と連携をとりながら適切に指導を行っている	③先生は、いじめは許さないという姿勢のもと、いじめが発生した場合は、適切に指導されている	4.1	4.2	0.0	4.4	4.2	4.0	A
	③特別支援教育の充実	③個々の生徒の発達特性を理解し、個別のニーズに応じて個別支援にあたっている			3.9	4.0	0.1	4.0			A
	④不登校支援の充実	④不登校傾向の生徒に対して、組織的に適切な支援を行っている			4.1	4.5	0.4	4.5			A
	⑤危機管理体制の確立と安全の確保	⑤「初期対応が全て」「危機管理のさしすせそ」の意識のもと対応している。また「報・連・相」の徹底を図っている			4.4	4.5	0.1	4.5			A
	⑥専門機関・関係機関との連携	⑥学校だけでは指導困難な生徒支援にあたり、専門機関や関係機関と連携して取り組んでいる			4.3	4.5	0.2	4.5			A
(2)豊かな心	①温かい人間関係づくりの推進(1)	⑦生徒一人ひとりの居場所がある学級づくりに努めている	①お子さんは、学級で楽しく過ごしている	①学級で楽しく過ごしている	4.1	4.1	0.0	3.8	4.0	4.5	A
	②温かい人間関係づくりの推進(2)	⑧特別活動に、生徒一人ひとりが主体的に取り組む。自立性や社会性を育めるよう計画し、実践している	④お子さんは、学校行事や生徒会活動に意欲的に取り組んでいる	④学校行事や生徒会活動に意欲的に取り組んでいる	4.2	4.1	0.0	3.9	4.2	4.3	A
	③人権意識の向上(1)	⑨「人権教育コアカリキュラム」を基盤として、すべての教育活動を通じて、自尊感情や他者への思いやり等人権意識の向上に努めている	⑤お子さんは、自分のことと他人のことを大切にしている	⑤自分のことと他人のことを大切にしている	4.3	4.3	0.0	3.9	4.3	4.5	A
	④人権意識の向上(2)	⑩いじめとは何かを理解させ、いじめにつながらないように、相手の気持ちを考えながら生活するよう指導している	⑥いじめにつながらないように、相手の気持ちを考えながら、生活している	⑥いじめにつながらないように、相手の気持ちを考えながら、生活している	4.4	4.3	-0.1	4.3		4.4	A
	⑤道徳教育の充実(1)	⑪社会生活を送る上で必要な規範意識を育む教育実践に努めている	⑥お子さんは、社会のきまりやマナーなどを守って生活している	⑦社会のきまりやマナーなどを守って生活している	4.3	4.3	0.0	4.2	4.3	4.4	A
	⑥道徳教育の充実(2)	⑫道徳の授業を確保し、指導方法の工夫改善に努めている		⑧道徳の授業に一生懸命取り組んでいる	4.0	4.0	0.0	3.9		4.1	A
	⑦キャリア教育の推進(1)	⑬「トライやる・ウィーク」をはじめとする体験活動等を通じて、生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てるキャリア教育の充実に取り組んでいる	⑦お子さんは、働くことの意義を理解し、将来の夢や目標の実現に向けて努力している	⑨働くことの大切さを理解し、将来の夢や目標の実現に向けて努力している	4.1	3.9	-0.2	4.2	3.7	3.8	B
	⑧キャリア教育の推進(2)	⑭生徒の将来を見通した長期的な視点に立った上で、学年に応じた柔軟性のある進路指導を行っている	⑧学校は、学年に応じた適切な進路指導を行っている	⑩卒業後の進路について、目標を持っている	4.0	4.0	-0.1	4.2	4.0	3.7	A
	⑨ふるさとを誇りに思う心の育成	⑮教科や道徳、特別活動や総合的な学習の時間（ふるさとキャリア教育、実地訪問、トライやるウィーク、グリーンキャンペーン等）の指導を通して、ふるさとを愛し、誇りに思う気持ちを育てるよう指導している	⑪多可町（八千代）が好きである		3.6	3.9	0.3	3.5		4.2	B
(3)確かな学力	①学力向上（授業改善）	⑯授業内容が理解できるよう、工夫して授業を行っている	⑨お子さんは、学校の授業の内容が理解できている	⑫学校の授業の内容が理解できている	3.8	3.9	0.1	4.2	3.7	3.7	B
	②学力向上（基礎基本）	⑰朝の学習にしっかりと取り組ませ、学力向上に努めている		⑬朝の学習にしっかりと取り組んでいる	4.0	4.3	0.3	4.4		4.2	A
	③ユニバーサルデザインの授業	⑰「ユニバーサルデザイン」の視点に立ち、共通した授業スタイルにより、すべての生徒にとってわかりやすい授業となるように工夫している		⑭授業では、「めあて」や「授業の流れ」が示されている	4.1	4.0	-0.1	3.7		4.4	A
	④研究推進	⑱研究テーマ「将来の目標達成に向け、マネジメントできる生徒の育成～より効率的・効果的な教育課程づくりを目指して～」のもと、研究・研修体制を確立し、研究授業と職員研修の充実を図り、各自の真実・能力の向上に努めている			4.1	3.5	-0.6	3.5			A
	⑤主体的・対話的で深い学び(1)	⑲授業の中で、ペアやグループで話し合ったり、協力して課題を解いたりすることに積極的に取り組んでいる		⑮授業の中で、ペアやグループで話し合ったり、協力して課題を解いたりすることに積極的に取り組んでいる	4.4	4.1	-0.3	4.0		4.1	A
	⑥主体的・対話的で深い学び(2)	⑳授業の中で、自分の考えや意見を書いたり、学習したことを自分の言葉でまとめる活動を通して、学習の深化を図っている		⑯授業の中で、自分の考えや意見を書いたり、学習したことを自分の言葉でまとめる活動に取り組んでいる	3.9	3.7	-0.2	3.8		3.7	B
	⑦ICTの活用	㉑授業の中で、積極的にクロームブックやデジタル教科書等の活用を図っている		⑰授業では、クロームブックやデジタル教科書などを活用している	4.1	3.4	-0.7	3.3		3.5	B
	⑧読書活動の充実	㉒生徒が読書に励むよう、積極的に働きかけを行っている	⑳お子さんは、家庭で本を読むことがある	⑱図書室を利用したり、家で本を読むことがある	2.3	2.9	0.7	3.2	2.9	2.6	D
	⑨家庭学習の習慣化	㉓スタディサプリやワーク・問題集、テスト計画表等を活用して、家庭学習に自主的・計画的な学習の充実を図っている	㉒お子さんは、ワーク・問題集やスタディサプリ等を活用して、家庭学習に自主的・計画的に取り組んでいる	㉒ワーク・問題集やスタディサプリ等を活用して、家庭学習に自主的・計画的に取り組んでいる	3.5	3.5	0.0	3.9	3.5	3.2	B
(4)健やかな体	①基本的な生活習慣の確立	㉔正しい生活習慣や食習慣を身に付けさせ、自らの健康管理ができる生徒の育成に努めている	㉒お子さんは、正しい生活習慣や食習慣が身に付いている	㉒正しい生活習慣や食習慣に気を付けて生活している	3.7	3.6	-0.1	3.3	3.8	3.7	B
	②基本的な生活態度の確立（挨拶）	㉕挨拶の指導を徹底している（いつでも、どこでも、だれとでも、目を合わせて）	㉒お子さんは、家庭や地域でしっかりとあいさつをしている	㉒あいさつがしっかりできている（いつでも、どこでも、だれとでも、目を合わせて）	4.1	3.6	-0.5	2.7	4.1	4.1	B
	③基本的な生活態度の確立（時間）	㉖時間を守るよう指導を徹底している		㉒学校で時間を守って生活している	4.3	4.3	0.1	4.3		4.4	A
	④基本的な生活態度の確立（清掃）	㉗無言清掃で時間いっぱい清掃するよう指導を徹底している		㉒無言清掃で、時間いっぱい一生懸命、掃除をしている	4.2	3.8	-0.4	3.8		3.8	B
	⑤基本的な生活態度の確立（メディア）	㉘メディア（テレビ、タブレット、スマホ等）の適切な使い方について、指導している	㉒お子さんは、家庭で作成したルールを守り、テレビやタブレットやタブレット、スマホなどだけめをつけて、見たり使ったりしている	㉒家庭で作成したルールを守り、テレビやタブレット、スマホなどだけめをつけて、見たり使ったりしている	3.4	3.3	-0.2	3.5	3.2	3.1	C
	⑥部活動	㉙生徒が自主的に活動し、挑戦する楽しさや喜びを味わうことのできる部活動の運営を行っている	㉒お子さんは、部活動に意欲的に取り組んでいる（お子さまが部活動に所属している人のみ）	㉒部活動は充実した活動になっている（部活動に所属している生徒のみ）	3.9	3.9	0.1	3.8	4.1	3.9	B
(5)信頼される学校	①信頼される教師集団	㉚保護者からの相談・要望に対し、誠実な対応を行っている。また、生活指導上の問題点等については、保護者との情報共有を迅速、かつ、適切に行っている	㉒学校は、保護者の皆様からの相談・要望に対し、誠実に対応している	㉒先生は困ったときには、親身になって、相談に乗ってくださる	4.2	4.1	0.0	4.5	4.2	3.8	A
	②積極的な公開、情報提供	㉛学校ＨＰや通信等を通じて、保護者の皆様へ積極的な情報公開・提供に努めている	㉒学校は、ＨＰや通信等を通じて、保護者の皆様へ教育活動内容を積極的に公開し、わかりやすく伝えられている	㉒配布プリント（学年通信、学級通信、陽光、案内文書など）を必ず家の人に渡している	4.3	4.4	0.2	4.8	4.4	4.1	A
	③学校満足度		㉒八千代中学校の教育に満足している	㉒八千代中学校が好きである	3.8	4.0	0.2		4.0	3.9	A
(6)働きがいのある学校	①学校組織運営	㉜「学校経営方針」のもと、組織の一員として、密な情報交換を行いながら、能動的・創造的に教育活動にあたることができている			4.1	4.2	0.0	4.2			A
	②勤務時間の適正化	㉝定時退勤日の完全実施、タイムマネジメントを意識した効率の良い職務の遂行に努めている			3.2	3.5	0.2	3.5			B
	③明るく風通しの良い職場づくり	㉞あらゆるハラスメントのなく、風通しの良い職場環境である			3.9	4.3	0.4	4.3			A
	④ワーク・ライフ・バランス	㉞年次休暇を計画的に取得している			3.4	3.7	0.3	3.7			B

本年度の重点目標
「 組織で協議し、組織で徹底する ～各種委員会、担当委会の活性化～ 」

学校関係者評価		学校自己評価及び改善方針の適正さの評価	
A	○達成している状況である。 ・(1)①の「確かな生徒理解に基づく生徒指導」については、他の項目に比べて、生徒の数値が若干低い傾向にある（１・２年生） ・(1)③の「不登校支援の充実」については、昨年度に比べて、大幅に数値が上がっている。 ・(1)④の「専門機関・関係機関との連携」については、昨年度に比べて、数値が上がっている。	・生徒指導については、教員は尽力しているが、生徒の感じ方との間に差がある。学級間、学年間での差もある。（概ね３年生生徒の評価は高い傾向にある）傾聴など、教員の力量アップを図る必要がある。 ・特別支援教育については、教職員の理解と力量に差がある。特別支援学級の生徒及び通常学級に在籍する支援を要する生徒への個別支援について、一層の研修が必要である。 ・不登校支援については、支援教員が配置されたことにより、支援体制が強化され、成果をあげている。未然防止のための対策が必要である。 ・個別支援力ルチの活用が定着し、いじめや生徒指導上の問題について情報共有及び対応のスピードが上がり、組織的に対応できている。	・不登校については、対人関係や学力、家庭環境等その要因は幅横しており、なかなか対応が難しいが、一人ひとりの根っこ部分に開わっていく必要がある。不登校状態になると、授業を受けられないため負のスパイラルに入ってしまう可能性がある。人の配置を含め、不登校の生徒が学びをすすめる環境を整える必要がある。不登校担当教員の配置はありがたい。引き続き、関係機関と連携を図りながら、取組をすすめてほしい。
	○達成している状況である。 ・(2)⑨「キャリア教育の推進(1)」については、昨年度より、数値が低い。 ・(2)⑩「多可町（八千代）が好きである」という設問については、教職員のふるさと教育への取組の数値が低い傾向にあるものの、生徒の数値は高い傾向にある。	・キャリア教育については、各学年ごと学習の系統性が弱いことが課題であったが、１年生職業調べとふるさとキャリア教育、２年生トリアやウィーク、３年生進路学習という中学校３年間を通したキャリア教育プランへの再構築を行うことができた。 ・進路指導については、教員はキャリア教育の視点から考えるが、生徒や保護者は、高校進学（高校入試）の視点から考えることが多く、捉え方にズレがある。面談で指導を進めていく必要がある。 ・ふるさと教育の項目では、数値的に改善している。中学生ボランティア等への参加者も増えている。地域の方を講師に招いての学習も増えている。その反面、教職員の数値が低く出ている。日々の指導の中で、ふるさと教育の視点を大切にして取組を進めたい。	・キャリア教育については、将来の職業を目指して高校を選択していただくことが理想であるが、中学生の段階で将来、自分が何がしたいのか明確な目標を持つことは難しいと思われる。社会経験も乏しく致し方ないところがある。成長とともに少しずつ視野も広がり、現実的な目標が持てるようになっていく。職業調べ、トリアやウィークといったキャリア教育とともに、中学１年生の段階から目の前の目標である高校入試についての学習も並行して学んでいくことが必要ではないか。
	○概ね達成している状況である。 ・(3)①「学力向上（授業改善）」については、昨年度より数値は改善しているが、授業内容の理解という点で、生徒、保護者ともに評価が低くなっている。 ・(3)④「主体的・対話的で深い学び(1)」については、昨年度に比べて数値が低くなっている。 ・(3)⑧「読書活動の充実」については、３者とも評価が低い状況にあるが、昨年度に比べて大幅に改善している。 ・(3)⑨「家庭学習の習慣化」については、生徒、保護者の数値が低くなっている。	・特に課題が見られるのが、授業の理解、家庭での読書、家庭学習の３つである。 ・ベテラン教員と若手教員の授業力の差が大きい傾向にある。多可町授業づくりスタンダード１０ポイントに基づき、授業改善が急務である。 ・家庭学習については、自主学習ノートについては廃止をし、宿題について、家庭学習で何をすべきかを明確化した。スタディサプリについては学力高い生徒ほど家庭学習で取り組む傾向にある。 ・全体的に学力に自信がない生徒が多い傾向にある。学びを定着させるために、予習・復習が必要（特に復習）であるが、そのための宿題をきっちりやってこない生徒が多い。自分一人で学習を進める力が弱い。生活ノートに家庭学習の時間を記録する等、家庭での時間の使い方にについてマネジメントするよう指導しているが、効果があまり見られない。 ・読書については、図書館司書を配置し、火～木曜日、放課後に図書室を開放しており、読書環境は大幅に改善した。また、朝の学習を読書ウィークとする週を設けた。次年度、朝の学習の時間に、週１回実施する計画であるが、読書の時間を設ける予定である。家庭でも本を手にとる機会を少しでも設けてほしい。	・不登校の背景に、学習のつまずきがあるケースが多い。学力の２極化が進む中、英語、数学については、習熟度別学習が望ましい。現状として、小規模校であるがゆえに教職員の定数が少なく、各教科の教員を確保するだけで精一杯である。県費での配置が難しいのであれば、町費で英語、数学の教員を配置できないか。また、小学校のように、通常学級に在籍する特別な支援を要する生徒の学習支援のために、スクールアシスタントを各学級に配置できないか。小さな学校でもしっかりと学ぶことが出来る環境を整えてやる必要がある。それでこそ「子育てするなら、ダントツ多可町」のキャッチフレーズに相応しいのではないか。PTAとしても町教育行政に要望したい。
	○概ね達成している状況である。 ・(4)②③基本的な生活態度の確立（挨拶）（清掃）については、昨年度より低い数値となっている。 ・(4)⑤基本的な生活態度の確立（メディア）」については、引き続き低い数値となっている。生徒、保護者評価の数値が低くなっている。	・ⅠＣＴについては、これからの時代、その使用を避けては通れない。上手に付き合っていくにはいけない。動画編集能力等、活用能力も長けている生徒が増えている。スマホ等が入ってきた当初に比べて、デジタルタウー等、社会問題化されるようになった。情報モラル学習により、トラブルは減っているが、家庭での使用については、親子ともに正しい使い方について学ぶ必要がある。参観日などを利用して、保護者を対象とした情報モラル講演会等を企画し、学びの場を設けたい。また、その際には、事前に周知を図り、できるだけ多くの保護者に参加を促す手立てが必要である。	・ⅠＣＴについては、これからの時代、その使用を避けては通れない。上手に付き合っていくにはいけない。動画編集能力等、活用能力も長けている生徒が増えている。スマホ等が入ってきた当初に比べて、デジタルタウー等、社会問題化されるようになった。情報モラル学習により、トラブルは減っているが、家庭での使用については、親子ともに正しい使い方について学ぶ必要がある。参観日などを利用して、保護者を対象とした情報モラル講演会等を企画し、学びの場を設けたい。また、その際には、事前に周知を図り、できるだけ多くの保護者に参加を促す手立てが必要である。
	○達成している状況である。 ・(5)①「信頼される学校」において、生徒の数値は昨年に比べて上昇しているが、他に比べて低い傾向にある。学年や学級間の数値のばらつきも大きい。 ・(5)③「学校満足度」については、昨年度より数値が上昇している。	・相談等については、教員は尽力しているが、生徒の感じ方との間に差がある。生徒のＳＯＳをキャッチする力、傾聴の力など、教員の力量アップを図りたい。また、学級担任任せにせず、学年団を中心に「みんなで育てる」という意識で、組織的に声をかけたい。	・自分からＳＯＳを発信しないで、抱え込んでいる生徒への働きかけは難しい。普段から教員と生徒との良い関係を築いていくことが大切。多くの教員の目で見ていく必要がある。また、自分からＳＯＳを発信できる力を、身につけられるよう「こころの健康教育」等で、取り組んでいくとよい。
	○概ね達成している状況である。 ・(6)②「勤務時間の適正化」④「ワーク・ライフ・バランス」については、教員評価の数値が昨年度に比べて、上昇している。	・タイムマネジメントを意識してできるだけ効率的に業務を行おうとする意識は高くなっている。 ・超過勤務については、個人差が大きい。良い教育をしようとするだけでも手間暇がかかる。保護者と連絡をとろうとすれば、どうしても勤務時間が遅くなる傾向にある。事務仕事を効率よく進め、生徒と向き合う時間を確保したい。 ・年次休暇の取得については学期はじめに計画を立て、学期に２日程度、取得していくよう求めたこともあり、改善傾向にある。	・業務改善も進んでいるが、学校の徐々努力だけでは限界がある。一番効果が大きいのが、人の配置である。学校で解決できる問題ではなく、町教育行政に訴えていく必要がある。財政的に厳しいことはわかるが、重点的に財政的支援をするポイントである。PTAとしても町教育行政に要望したい。